

看護部概要

2023年度



公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター 看護部

I. 病院理念

私たちは、市民の皆様に信頼され「地域医療最後の砦」となる病院を創造します。

II. 看護部理念・方針

1. 看護部理念

Create Nursing that leads to the future.
信頼に応え、未来につながる看護を創造します。

2. 看護部方針

- 1 高い倫理観を持ち、患者の権利や意思を尊重します。
- 2 患者の生活・医療の継続のため地域医療の一翼を担います。
- 3 根拠に基づいて適切に判断し、必要な看護を提供します。
- 4 職員の健康を守る働きやすい職場環境をつくります。
- 5 快適な医療環境を大切にし、健全な病院経営に参画します。
- 6 変化に柔軟に対応し、役割と責任を果たします。

3. 教育方針

【当院の機能・役割と人材育成】

当院は3次救急機能を備えた病院として、難度の高い急性期医療を担う一方、大学病院として高度医療への対応を行い、地域医療を支援する病院である。そのため、高度な技術や知識の習得だけでなく、豊かな人間性と高い倫理観を備え、病院の機能に対応するだけでなく、地域医療に貢献できる看護職を育成することを使命としている。

【教育方針】

1. 市民総合医療センター看護部の教育基盤を力として一人ひとりの看護職の可能性を見出す。
2. 一人ひとりの看護職の力や可能性を発展、成長させ育成する。
3. YCU-Nに基づき、ジェネラリストを育成する。

【教育目的】

大学病院における役割、病院の理念、看護部の理念と方針を理解し、高度な知識・技術、豊かな人間性、高い倫理観を備えた看護職を育成する。

【教育目標】

1. 臨床実践能力の向上を図り、安全で安心な看護を実践できる。
2. 専門職業人として自覚を持ち、自己成長できる。
3. 医療チームの一員として役割と責任を果たすことができる。
4. 患者を尊重し、倫理観を養うことができる。
5. 看護の質向上を目指し、研究に取り組むことができる。
6. レジリエンス(「回復力」「復元力」あるいは「弾力性」)を発揮し、柔軟に対応することができる。

4. 期待する看護職員像

1. 一人ひとりが得意分野・技を持つ看護職
2. 自分の持っている力を活かし、組織・地域に貢献できる看護職
3. 高い倫理性を持って行動できる看護職
4. 常に患者の生活を捉え、その全体像から必要ケアを判断し、提供できる看護職

5. YCU-N (Yokohama Career Up for NURSE)

YCU-Nとは横浜市立大学が目指すジェネラリスト育成計画である。基礎教育で養成された能力を、あらゆる対象と状況に対応できるよう育む。

横浜市立大学が目指すジェネラリストとは横浜市立大学の安全・倫理を基盤とし、看護師に必要な基本的能力を身に付けながら知識・技術・能力を発揮し、キャリア開発をし続ける看護師である。

YCU-Nは5段階で構成され、3段階目までに基本的な看護の実践ができることを目指し、4段階目以降はそれぞれのニーズに応じたキャリア形成のためのプログラムを行っていく。また、ジェネラリストとして習得すべき能力は6つの基本的能力と21の下位能力から構成されている。



【表1】 6つの基本的能力と21の下位能力

①ヒューマンケアを提供するために必要な基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 •意思決定を支える能力 •実施する看護について説明し同意を得る能力 •援助的関係を形成するコミュニケーション能力
②対象を全人的に捉え、根拠に基づく看護を展開できるように必要な基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •人間を多面的（病態生理、生活者、社会）に捉え、統合する能力 •エビデンスを収集・活用して臨床判断できる能力 •問題解決思考を用いて看護を実践する能力 •看護援助技術を安全かつ適切に提供できる能力
③健康課題に対応した看護を展開できる基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •健康の保持増進と疾病を予防する能力 •急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 •慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 •終末期にある人々を援助する能力の育成を行う能力
④ケア環境とチーム体制を整備し看護を展開する基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •看護機能と看護の質を評価し改善するマネジメント能力 •多職種と協働して地域ケアシステムを構築する能力 •安全なケア環境を提供する能力 •保健医療福祉の協働チームでリーダーシップをとり多職種と連携する力 •社会の動向を踏まえて看護を創造（アート）する能力
⑤生涯専門職として研鑽を継続していく基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •生涯学習を継続して成長するための自己教育力とキャリアデザイン力 •看護専門職（プロフェッショナル）としての価値と専門性を発展する能力
⑥専門職として看護の実践知を共有できる基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •対象のレジリエンスに合わせて教育・指導する能力 •看護実践を研究的視点で捉える能力

Ⅲ 看護部目標



看護部目標 2023 年度

看護部理念：Create Nursing that leads to the future.

信頼に応え、未来につながる看護を創造します。

看護部方針

- ・高い倫理観を持ち、患者の権利や意思を尊重します。
- ・患者の生活・医療の継続のため地域医療の一翼を担います。
- ・根拠に基づいて適切に判断し、必要な看護を提供します。
- ・職員の健康を守る働きやすい職場環境をつくります。
- ・快適な医療環境を大切にし、健全な病院経営に参画します。
- ・変化に柔軟に対応し、役割と責任を果たします。

看護部中期目標 2021 年～2023 年

変化に柔軟に対応しながら垣根を越えてチャレンジする

キーワード：「患者中心」「発信」「変革」「継続」

- ・ケアプロセスに沿った適切な支援を行い、継続性と多職種連携を強化する（PFM）
- ・次世代につながる人材育成を行う
- ・働きやすい職場環境への取組みを行う
- ・健全な経営参画を行う
- ・安全で安心な医療環境（安全・感染）の推進を行う

【2023 年度看護部目標】

1. 他職種と連携して、患者のケアプロセスに基づき PFM を実践する
2. 医療チームの中で役割発揮できる人材を育成する
3. 業務を見直し、働き方改革を実現する
4. 安全と経営の視点をふまえた、部署課題に取り組む
5. 1) 「医療安全管理指針・マニュアル」に則り、患者確認を徹底する
2) 安全、感染、災害対策を徹底した医療環境を整える

【院内課題】

- ・特定共同指導
- ・病院機能評価受診準備
- ・院内改修（外来）

IV 看護部組織

IV-1-1) 看護部組織図 部署管理体制

2023年度



IV-2-3) 看護提供方式

当院の看護提供方式は「Partnership Nursing System:PNS[®]」を実践している。看護師が安全で質の高い看護を共に提供することを目的に実施している。パートナーはお互いに、対等な立場で、互いの特性を生かし、相互に補完し協力し合うこと、日々の看護ケアをはじめ委員会活動、病棟内の係りの仕事に至るまで、1年間を通じて活動し、その成果と責任を共有する看護体制である。

年間パートナーになった者同士が、担当患者の看護や組織活動等(委員会や病棟内の係り活動等)あらゆる業務においてともに活動し、それを副看護師長・グループリーダーをコアとしたグループで補完し、協働する。日々の看護ケアにおいても、看護師2人がペアとなって患者を担当し、コミュニケーションを密に図りながら情報を共有し、検温、治療、検査、清潔ケア、日常生活の援助、記録等を協働するものである。基本的要素は以下の4つで構成されている。

<PNSの基本的要素>

1. パートナーシップ・マインド
2. 年間パートナー
3. 補完
4. リシャッフル

IV-2-4) 電子カルテと看護記録

看護記録は「診療録記載マニュアル」や「診療録記載マニュアル 看護記録版」に基づき、看護師が看護過程および看護の実際を記録した全ての記録・文書を示す。一部の紙面は手書き記録の運用であるためスキャナーし電子カルテに保存する。

看護記録の基本的な考え方

日本看護協会「看護記録に関する指針」に準ずる

1. POS(Problem Oriented System)
2. ゴードン機能的健康パターンのアセスメント枠組み
3. 看護診断(NANDA-I)2021-2023版
4. 看護診断別標準看護計画

IV-3 看護単位の紹介

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
7-2病棟	病床数50床 精神医療センター (50床)	統合失調症、うつ病、双極性感情障害、摂食障害、器質性精神障害、認知症、発達障害、身体合併症各種 (妊娠・低栄養状態・多発外傷・悪性腫瘍・イレウス・肺炎など)	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県精神科救急医療基幹施設として行政病床6床を保有し、急性期患者に対応できる安全な看護を提供する。 ・治療上必要な行動制限を高い倫理観のもと、適切に行い、早期の制限解除に取り組んでいる。 ・他診療科と協働して、身体的な病状に合わせた身体合併症看護を提供する。 ・傾聴と丁寧な観察を行い、患者の気持ちに寄り添う看護を提供する。 ・多職種と協働しチームで、入院から退院後まで継続した看護を提供する。
8-1病棟	病床数43床 心臓血管センター内科 (35床) 内分泌・糖尿病内科 (8床)	心筋梗塞、狭心症、不整脈、弁膜症、心不全、肺血栓塞栓症、感染性心内膜炎 糖尿病、内分泌疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・CCU、病棟、外来と連携をとり超急性期～亜急性期・回復期～退院後の外来通院・心臓リハビリテーション外来フォローへと途切れることなく継続した看護を提供する。 ・高齢化などの社会状況を見据え、服薬・栄養・運動指導など個別の背景に合わせた看護を提供する。 ・糖尿病に対しては、患者の個性に合わせて外来から病棟まで継続した看護・教育指導を行う。
8-2病棟 CCU	病床数26床・CCU6床 心臓血管センター外科 (26床) 心臓血管センター内科 (6床)	急性心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈、肺血栓塞栓症、心筋症、急性大動脈解離、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤など	<ul style="list-style-type: none"> ・心・大血管疾患の超急性期～慢性期、退院後の生活までを見据え、継続した看護を提供する。 ・心・大血管疾患の内科的治療・外科的治療に精通し、安全な看護を提供する。 ・患者がもつ回復力や予備機能を活かし、支援する。 ・患者・家族の意思決定を尊重し、個々のニーズに合わせた看護を提供する。
9-1病棟	病床数34床 総合周産期母子医療センター (12床) 乳腺甲状腺外科 (9床) 皮膚科 (5床) 消化器病センター内科 (6床) 心臓血管センター内科 (1床) 感染共用 (1床)	産科的異常のある妊婦 (切迫早産、前置胎盤、妊娠高血圧腎症、重症悪阻) 合併症のある妊産褥婦 (糖尿病、心疾患、消化器疾患) 悪性腫瘍 (乳癌・甲状腺癌) パセドウ病 急性・慢性のアレルギー性皮膚疾患 難治性皮膚潰瘍、皮膚腫瘍 食道、胃、大腸癌 肝炎、肝硬変、肝臓癌 胆管炎、胆嚢炎 心筋梗塞、狭心症、不整脈 水痘および汎発性帯状疱疹などの空気感染	<ul style="list-style-type: none"> ・正常を逸脱して入院となった母体や胎児に対し、日々の経過から小さなサインを見逃さず緊急事態に対応する。 ・母乳育児を推進し、退院後もセルフケアが行えるよう支援する。 ・グリーフケアを大切に、予期せぬ胎児・新生児死亡のケースにおいては多職種で連携しケアを行う。 ・早期から緩和ケアチームや多職種と連携し、患者の意思決定支援を行いながら療養環境を整える。 ・患者家族を常に主体とし、意思を尊重して個性のある看護を提供する。 ・専門的治療を不安なく受けることができ、早期に社会復帰できるよう支援する。
9-2病棟 MFICU	病床数38床 産科 (24床) 新生児 (14床) MFICU6床	正常分娩、産科的異常ある妊娠・分娩 (双子・切迫早産・前置胎盤・妊娠高血圧腎症・FGRなど) 母体合併症のある妊娠・分娩 (心疾患・糖尿病・消化器疾患など) 正常新生児、低出生体重児、早産児 (妊娠35週以降)	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県周産期救急医療システムの基幹病院として、24時間体制で産科救急及びハイリスク妊産褥婦に対応している。 ・危機的状況や逸脱した経過の妊産褥婦及び家族に対し多職種連携を図り、チーム医療を提供している。 ・多様なニーズに応えるべく、産科医・麻酔科医・助産師で協働し麻酔分娩を行っている。 ・WHO・ユニセフから「赤ちゃんにやさしい病院 (BFH)」の認定を受け、基本的には母乳育児を推奨し24時間母子同室としている。 ・NCPR Aコース以上を全員取得、フォローアップ研修の企画・運営に取り組んでいる。 ・予期せぬ胎児・新生児死亡を経験した患者・家族のグリーフケアを母子医療センター合同で実践する事を大切にしている。

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
NICU GCU	病床数21床 NICU (9床) GCU (12床)	早産・低出生体重児（在胎22週以降）、重症新生児仮死、新生児一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、先天奇形、染色体異常、頭蓋内出血、新生児低血糖症、高ビリルビン血症、未熟児網膜症、多胎（双胎・品胎）	<ul style="list-style-type: none"> ・総合周産期母子医療センター、神奈川県周産期救急支援システム（新生児・産科）の基幹病院としての役割発揮 ・BFH（赤ちゃんにやさしい病院）認定施設として「母乳育児を成功させる10か条」に基づいた母乳育児の推進 ・新生児集中ケア認定看護師を中心とした、急性期重症患児・ハイリスク新生児への専門的知識、技術に基づいた安全な看護の実践 ・NIDCAPプロフェッショナルの支援による、早期から個別ケアを展開と発達を促進させる看護の提供 ・家族と共に児のよりよい成長発達を目指すファミリーセンタードケアの実施 ・出生後早期からの多職種連携と、退院後の生活を見据えた家族支援
10-1病棟	病床数48床 泌尿器・腎移植科 (21床) 腎臓・高血圧内科 (12床) 婦人科 (11床) 生殖医療センター (2床) 心臓血管外科 (1床) 共用病床 (1床)	膀胱腫瘍、前立腺癌、腎・尿管癌、精巣腫瘍、生体・献腎移植 慢性腎臓病、腎炎 ネフローゼ症候群 子宮・卵巣癌、子宮ポリープ、子宮外妊娠 不妊症、精巣静脈瘤 狭心症、急性大動脈解離術後	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時に迅速なアセスメントを行い、周手術期患者看護の不安軽減を図り、外来連携をする。 ・悪性腫瘍の化学・放射線療法に対する個別性のある生活指導と看護の提供。 ・緩和ケア・リエゾン・MSWと多職種連携し、患者の意思決定支援に寄り添う。 ・腎移植・ウロストミー造設患者に対し、早期から退院後の生活を見据えた指導を行う。 ・腎臓病の重症化予防のための教育入院、生活指導の支援を行う。 ・神奈川県で唯一男女ペアでの不妊治療が可能な病院であり、外来からの精神面サポートやプライバシーに配慮した環境を提供する。
11-1病棟	病床数47床 消化器病センター内科 (28床) 脳神経内科 (19床)	食道胃静脈瘤、胃十二指腸潰瘍、早期胃癌、早期大腸癌、早期食道癌、肝炎、肝癌、胆嚢胆石症、胆道癌、膵臓癌 パーキンソン病、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、筋ジストロフィー、多発筋炎、脳梗塞	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器癌患者に対する専門的治療（内視鏡治療、超音波下治療、化学療法等）を不安なく受けられ、短期間での通常の生活に戻ることができるよう支援する。 ・急性期患者や脳神経内科疾患患者の機能回復へ向けた看護を実践し、地域医療へと移行する過程での支援他職種と連携し提供する。
11-2病棟	病床数47床 消化器病センター外科 (44床) 消化器病センター内科 (2床) 感染共用 (1床)	消化器癌（食道、胃、肝臓、膵臓、胆道、大腸、直腸）、胆石症、虫垂炎、消化管狭窄、腸閉塞、腹壁ヘルニア、鼠経ヘルニア、消化管腫瘍、肝腫瘍、膵炎 結核、汎発性帯状疱疹、風疹、麻疹	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる健康レベルにおいて、多職種連携を推進し患者とのアドヒアランスを高め支援する。 ・周術期の急性期から退院後の生活へ向けた看護を実践する。 ・患者が住み慣れた地域で安心して療養生活を送れるよう、患者のニーズに応じた在宅療養支援を行う。 ・看護者の倫理要綱を行動指針とし、人権尊重を基盤とした看護ケアを実践する。

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
12-1病棟	病床数49床 眼科 (23床)	網膜剥離、糖尿病性網膜症、黄斑円孔、黄斑上膜、網膜中心静脈閉塞症、白内障、眼球破裂	<ul style="list-style-type: none"> ・眼科、耳鼻科、形成外科における周術期の専門的なケアを行う ・感覚障害、言語障害に伴う、コミュニケーション不足等により危機回避能力の低下した患者に対する安全・安楽な看護ケア、療養環境の提供を行う。 ・在宅療養へ移行する患者・家族への指導及びQOLの保持、自立を促す看護の提供、入退院支援看護師、MSW等の多職種と連携した在宅調整の推進 ・癌患者への治療を含めた専門的なケアの提供、緩和チームと連携した疼痛コントロールと全身管理、終末期を見据えた意思決定
	耳鼻咽喉科 (22床)	頭頸部、舌部、上顎洞部などの悪性腫瘍、慢性副鼻腔炎、急性扁桃炎、突発難聴、顔面神経麻痺	
	形成外科 (4床)	ケロイド、肥厚性瘢痕、手指切断、皮膚腫瘍、乳房再建	
12-2病棟	病床数40床 呼吸器病センター 内科 (29床) 外科 (6床)	悪性疾患 (肺がん、縦隔腫瘍) 慢性疾患 (間質性肺炎、慢性閉そく性呼吸器疾患等)、気胸、膿胸等	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患、歯科口腔外科領域疾患の専門治療 (手術・化学療法・放射線療法など) に対する知識・技術を習得し、安全な看護を提供する。 ・呼吸不全による呼吸困難感から生じる不安に寄り添った看護を提供する。 ・患者/家族の医師を尊重し、多職種や専門チームと協働し、緩和ケア、終末期ケアを実践する。 ・在宅酸素療法や終末期を自宅で迎える患者/家族に必要な在宅療養支援看護を提供する。
	歯科・口腔外科・矯正歯科 (5床)	顎変形症、口腔領域の悪性腫瘍、感染症等	
13-1病棟	病床数30床 小児医療センター (25床) 共用小児科 (5床)	腎臓疾患、内分泌糖尿病疾患、神経疾患、感染免疫疾患、呼吸器疾患、心臓疾患を除く外科系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市小児救急医療第3次受け入れ施設として、急性期から慢性期までの子どもとその家族に質の高い小児看護を提供する。 ・センター病院こども憲章に則り、子どもが安心して治療を受けられる環境を提供し、成長発達を促す支援を実施する。 ・在宅に向けての支援や意思決定支援において、地域を含めた他職種と連携し、子どもと家族のニーズに沿った看護ケアを提供する。
13-2病棟 無菌室	病床数51床 血液内科 (24床) 無菌室 (4床)	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血	<ul style="list-style-type: none"> ・造血器腫瘍に対する化学療法、造血細胞移植、輸血療法に関する看護技術や患者ケアを行う。 ・造血器腫瘍患者の緩和ケア (アドバンスケアプランニングの実践・緩和ケアチームとの連携・エンドオブライフケア) を行う。 ・造血幹細胞移植後フォローアップ外来を担当する事で退院後の継続したケアを行う。 ・IBDやリウマチ内科の患者の薬剤・栄養療法を支援すると共に、家族を含めた精神的サポートを行う。 ・患者・家族が安心して治療に参加できるよう、きめ細やかな心配り、開かれた医療サービスの提供を行う。
	炎症性腸疾患/IBDセンター (14床)	クローン病、潰瘍性大腸炎、腸管ペーチェット	
	リウマチ内科 (5床)	SLE、皮膚筋炎、強皮症、慢性関節リウマチ、間質性肺炎等膠原病全般	
	共用病床 (3床)		
	共同診療病床 (1床)		
14階病棟	病床数45床 整形外科(27床)	変形性関節症や脊椎疾患、骨折、外傷、運動機能改善を目指した外科治療など	<ul style="list-style-type: none"> ・高い倫理観を持ち患者の人権、人格を尊重し、安全、安心で質の高い看護を提供する。 ・急性期、周術期患者の機能回復に向けた看護を実践し、多職種と連携しながら地域医療へ継続する。 ・個々の生活背景に応じた回復期の支援を行い、生活者としての患者に寄り添ったケアを提供する。
	リウマチ整形(5床)		
	脳神経外科(10床)	脳血管障害(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血、脳動脈瘤など) 脳腫瘍、下垂体線腫	
	共用病床(3床)		
14階特別室	病床数 15床 全診療科、全疾患・治療に対応 (精神・母子・小児に関しては一部対応)	内科系、外科系問わず急性期、周術期、慢性期の疾患に対応する 自家組織を用いる「穿通枝皮弁」による乳房再建術	<ul style="list-style-type: none"> ・患者にじっくり向き合い、個別性を尊重した看護を提供する。 ・患者に寄り添い回復期の支援を行い、患者の意思決定を支援する。 ・全診療科、様々な治療過程の患者に対応し、安全、安心で質の高い看護実践を行う。

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
GICU GHCU	GICU（8床） GHCU（10床）	心疾患（心筋梗塞、狭心症、胸・腹部動脈瘤、解離性大動脈瘤）、脳腫瘍、下垂体線種、食道癌、腎移植、小児疾患、分娩時合併症、呼吸・循環不全、術後など	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤な状態にある患者へ治療効果が最大限に得られるようなクリティカルケアの提供とその患者を支えるご家族への精神的ケア ・異常の早期発見と全身管理における周手術期看護 ・感染対策の徹底と感染予防ケア ・患者・家族の意思決定を尊重し、ニーズにこたえる看護ケア
EICU	病床数12床 高度救命救急センター救急科（12床）	重症外傷、多発外傷、広範囲熱傷、指肢切断、中毒、急性呼吸不全、循環不全（ショック）、心肺停止、意識障害、重症感染症、高体温・低体温、消化管出血、脳出血、脳梗塞など	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の危機状況にある患者、重篤な合併症が予測される患者へのクリティカルケアを提供する。 ・個別性に合った最適な看護を選択し、予測的判断をもってチーム医療を実践する。 ・患者・家族に対する精神的援助や意思決定支援を支える看護を提供する。 ・より良い看護実践へ向けて、部署専門チーム（呼吸・循環、急変、早期離床、摂食・嚥下、ECMO、IMPELLA、家族看護）と連携しケアを継続する。
救命病棟	病床数8床 高度救命救急センター救急科（8床）	重症外傷、多部位外傷、多発外傷、切断肢、中毒、急性呼吸不全、心肺停止蘇生後、循環不全、意識障害、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、COVID-19肺炎など	<ul style="list-style-type: none"> ・超急性期から亜急性期の患者において身体的・精神的・社会的側面から患者ケアを提供する。 ・多職種と連携し患者・家族をサポートし意思決定支援を行う。 ・社会復帰に向けた退院支援を実施する。 ・終末期の看取りの環境を整え、患者家族のグリーフケアを実施する。
救命後方病棟	病床数27床 高度救命救急センター救急科（27床）	重症外傷、多部位外傷、多発外傷、切断肢、中毒、急性呼吸不全、心肺停止蘇生後、循環不全、意識障害、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、COVID-19肺炎など	<ul style="list-style-type: none"> ・亜急性期からリハビリ期の患者において身体的・精神的・社会的側面から患者ケアを提供する。 ・社会復帰に向けての支援や意思決定支援において多職種と連携し患者・家族をサポートする。 ・全診療科を対象とする2次救急患者の入院対応を行う。
初療室 放射線部 内視鏡室	初療室 CT初療室 救急外来 透視室 CT室 MRI室 血管撮影室 ハイブリット手術室 内視鏡室	重症外傷、多部位外傷、切断肢、熱傷、急性心血管疾患、急性脳血管障害、呼吸不全、循環不全、消化管出血、ショック、心停止など 各診療科の検査・診断・治療、上下部消化管の検査・診断・治療	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療処置を必要とする患者に対しての看護実践 ・危機的状況に置かれた患者・家族の意思決定支援を含めたケアの実践 ・患者の緊急度に応じて優先順位を判断し、適正な診療へ繋げる。 ・内視鏡室、透視室、血管撮影室における深鎮静下での検査・治療の安全な介助と、状態観察及び看護実践 ・ハイブリット手術室での高難度治療実施時の介助と看護実践 ・全ての治療室での多職種で連携したチーム医療の実践 ・療養生活に視点を置いた、看護の情報継続、支援の実施
手術室	中央手術室 13室 本館手術室 6室 ハイブリット手術室 1室 周術期管理センター	心臓手術、大血管手術、脳血管手術、悪性腫瘍手術、重症外傷手術、腎移植術、ロボット支援下手術、日帰り手術など	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性のある知識と技術を持ち個別性のある周術期看護を提供する。 ・患者の生命倫理や尊厳の尊重、手術の意思決定など倫理的な視点を持ち看護を提供する。 ・周術期の患者に対し、安全で安心できる看護を提供する。 ・多職種で連携し安全な手術看護を提供する。

病棟名	構造	大事にしたい看護
外来 A	<p>【疾患別センター】</p> <p>リウマチ膠原病センター 炎症性腸疾患センター 精神医療センター 生殖医療センター</p> <p>【専門診療科】</p> <p>一般内科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科・口腔外科・矯正歯科、麻酔科、リハビリテーション科、遺伝子診療科、緩和ケア内科</p> <p>【検査・中央部門】</p> <p>超音波穿刺室、血液浄化療法室、自己血外来、治験担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病態生理や病状、重症度および緊急度などを短時間で把握し必要なケアをアセスメントし専門性の高い看護を提供する。 ・患者の状態変化に伴う不安や苦痛に寄り添い、安心して診療が受けられるよう適切な看護を実践する。 ・疾患を持ちながら地域で療養・社会生活を営む患者が、安心して生活を送れるように、療養上の世話や医療処置等の指導を行う。 ・特定の専門領域において、患者の個性に応じた生活に伴う症状改善や自己管理の支援等を看護師が主導して行う、看護外来を行う。（フットケア外来、不妊看護外来等） ・入院前から患者の生活に関する情報収集を行い、安心して入院生活を送れるように努めるとともに、多職種と協働して地域や在宅のサービスを総合的にアセスメントし、患者・家族のニーズに合わせた退院支援・退院調整を行う。 ・患者に対して、安心感や信頼感が得られるような接遇を心がけている。
外来 B	<p>【疾患別センター】</p> <p>総合周産期母子医療センター 心臓血管センター 消化器病センター 呼吸器病センター 小児総合医療センター</p> <p>【専門診療科】</p> <p>血液内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、乳腺・甲状腺外科、皮膚科、泌尿器・腎移植科、婦人科、放射線科、脳神経外科、形成外科 外来化学療法室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病状から重症度および緊急度などを短時間で把握し必要なケアをアセスメントしながら、専門性の高い看護を提供する。 ・患者の状態変化に伴う不安や苦痛に寄り添い、断らない外来を実践する。 ・疾患を持ちながら地域で療養・社会生活を営む患者が、安心して生活を送れるように、療養上の世話や医療処置等の指導を行う。 ・特定の専門領域において、患者の個性に応じた生活に伴う症状の改善や自己管理の支援等を看護師が主導して行う、看護外来を行う。（フットケア外来、ストマ外来、がん看護外来、腎移植後フォロー外来、母乳外来、小児看護外来、リンパ浮腫外来等） ・患者や家族の治療に関する理解度や意向を把握し、意思決定支援を行う。 ・患者に対して、安心感や信頼感が得られるような接遇を心がけている。
患者総合サポートセンター	<p>【入退院支援センター】</p> <p>入院支援（母子、小児、精神科除く全診療科） 退院支援（全診療科）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院支援担当は、外来から退院後の生活までを見据えてスクリーニングを行い、退院後の生活も途切れることなく安心して生活できるように支援調整をしている。 ・入退院支援担当は、外来診療継続や退院後の療養支援計画を地域に繋ぐ調整役割を担っている。
	<p>【がん包括センター】</p> <p>専門的ながん看護 （全診療科対象の緩和ケアチーム活動、がん相談など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や治療に伴う気持ちや体のつらさを理解し、今後の治療や療養生活に関連した悩みや不安を共に考え支援している。 ・早期からの緩和ケアを目指し、多職種と連携しながら専門的介入を行っている。
	<p>【患者サポート担当】</p> <p>患者・家族からの相談対応、通訳対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族目線になって各種相談に応じ、医療者とのパートナーシップに基いた相互理解と関係構築の支援を行っている。 ・外国語医療通訳を必要とする患者の診療支援の調整を行っている。 ・多職種連携で業務を担うことで様々な視点での患者・家族支援を行っている。